



アイクリップマガジン



magazine



SPECIAL

ちゃんと分かってる？ 順位登録&中間公表



『救急医療教育室』で学べることは



Part 1 市中病院と連携して 初期～3次救急まで学べます。

長崎大学病院の救命救急センターをローテートする研修医の先生方全員が、初期・2次救急の患者を受け入れている2つの市中病院に週1日のペースで出向き、長谷先生と研修医の先生と一緒に救急外来や救急当直を行います。そこではマンツーマン指導のもと、あらゆる救急患者のファーストタッチを経験することができます。3次救急については、これまで通り長崎大学病院の救命救急センターで学べるため、「救急医療教育室」が開設されたことで初期から3次救急まで、あらゆる救急医療を経験できるようになりました。

市中病院では、1日で数十人の救急外来患者を診たり、1回の当直で10台程の救急車搬送への対応を手厚い指導のもとで経験できます。



ドクターカー研修にも参加できます

Part 2 日本救急医学会認定 ICLSコースが受講できます。

長崎大学病院では県内で初めて、日本救急医学会認定ICLSコースを開催しています。救急医療教育の一環として、全研修医の「ICLSアシスタントインストラクター」資格取得を目指しています。このICLSコースは、認定内科医の資格認定試験の受験時に必ず役に立ちますので、受講することをおすすめします。



森田修平(もりた しゅうへい) 医師
研修医1年次:佐賀大学出身

ICLSコースを受けたことで、ドクターカーでの研修や救命救急センターをローテート中に気管挿管を成功しました。受講していたからこそ、実際にできたのだと思います。

研修は長崎大学病院へ!

長崎で、 初期～3次救急を学ぼう!!

全国で注目の
プロジェクト

救急医療教育室が 長崎大学病院に誕生!!!

今年4月、長崎大学病院では研修医に初期・2次救急症例を指導するための専門部署「救急医療教育室」を開設しました。同室の設立に携わり、初代室長を務める長谷敦子先生に、立ち上げたきっかけや特徴、また「救急医療教育室」が注目を集める理由、どのような研修が行われているのか、そして研修を通じて得られることについてお聞きしました。

「救急医療教育室」を設立したきっかけ

長崎大学病院の救命救急センターは、3次救急の患者さんすべてに対応できるスタッフや施設が充実しており、その患者さんに対応することで研修医の先生方に救急医療の基本を学んでもらっているのですが、「大学病院では研修医が初期・2次救急の症例を経験する機会が少ない」と感じていました。これを解決すべく、「初期・2次救急症例の診療方法や考え方を研修医にマンツーマン指導する専門部署」が必要だと考え、「救急医療教育室」を開設したのです。



長谷 敦子 (ながたに あつこ)

長崎県生まれ。長崎大学病院 救命救急センターを立ち上げ、副センター長を務める。2014年4月から長崎大学病院 医療教育開発センター 救急医療教育室の室長に就任、教授となる。
資格 日本麻酔科学会指導医/日本救急医学会指導医、日本蘇生学会指導医/JATECインストラクター及びインストラクタートレーナー/DAMインストラクター/ICLSコースディレクター



指導医に聞きました



充実した指導体制の下で行う 市中病院での救急外来・当直

「救急医療教育室」の設立は、「**大学病院と市中病院のいいとこどり**」をしようというプロジェクトで、長崎大学病院では診る機会が少ない初期・2次救急の患者さんを市中病院で経験してもらうものです。しかし市中病院において、数多くの症例を研修医の先生に診てもらうためには、しっかりと指導できる環境・マンパワーが必要になります。そのため私が研修医の先生とともに病院へ出向き、病院のスタッフとマンツーマンで指導しています。長崎大学病院と市中病院とが手を取り合ったこの取り組みは、地域内でWin-Winの関係を築きながら地方の救急医療事情をより良く変えていく方策として、将来的には他の地域にも広めていきたいと考えています。



患者さんの要求に応え、 重症例を見逃さない医師に

研修医の先生方には、**自分たちの裁量の範囲内でファーストタッチをして、診察方法や必要な検査から診断・治療へつなげるというプロセスの面白さや大変さを、一つひとつの症例から学んでもらいたい**ですね。また、患者さんとのコミュニケーションは、経験を積んで引き出しを増やすことでコミュニケーション能力をしっかりと身につけ、初対面の患者さんの要求に応えられるようになってほしいです。パソコンの画面ばかり見て話したり、検査ばかりしては患者さんが抱える問題は見抜けません。そして、救急診療に携わるにあたり、自分が診た症例だけではなく、一緒に当直しているスタッフから経験談を聞いたり、たくさん先生たちと触れ合うことで、多くの軽症例の中から重症例を見逃さないようになってほしいですね。見るだけではなく、聞く経験も大事です。「救急医療教育室」の研修は市中病院の先生から学ぶことが多い貴重な場ですから、得られた知識や経験を今後役に立ててほしいですね。

日本医学教育学会大会 での発表

7/18~19に行われた第46回日本医学教育学会大会において、長谷先生が日本初の取り組み「救急医療教育室」について発表しました。多くの病院から教育やシステムについて詳しく聞かれるなど、救急医療現場での取り組みに大いに興味を持っていただきました。今後も実績を重ね、全国へ広げていきたいと考えています。



マッチングは長崎大学病院で！ぜひ見学に来てください！

長崎大学病院 医療教育開発センター

TEL : 095-819-7847 / FAX : 095-819-7882
E-mail : kaihatu@ml.nagasaki-u.ac.jp

救急医療教育室 で 検索



初期研修医に聞きました



できることが格段に増え、進歩を実感

「救急医療教育室」での研修を通じて、自分のできることが格段に増えました。ルートの取り方や病棟での点滴といった手技・処置、診察や診断にあたっての着目ポイント、症状が軽い患者さんへの説明の仕方、緊急性がある患者さんをどれだけ安心して帰すことができるかなどです。また、**長谷先生の診療を間近で見させていただき、患者さんを安心して帰す対応や話術がすごいので、私も先生のようにになりたい**と思っています。研修で回る救急科では、一つの科ではできないことや、普段診られない症例を数多く経験することができます。救急科は診る領域が決まっていませんので、ゼロの状態から患者さんを診ていく必要があります。

救急が好きなので将来的には救急をサブにしようと考えていますが、今回の研修で自分の気持ちを再確認できて良かったです。救急研修をする機会があれば、ぜひ研修させていただきたいと思っています。



石橋加奈子(いしばしかなこ)医師
研修医1年次:長崎大学出身



回った科の経験を 市中病院で活かす

市中病院での研修全体が楽しかったです。出勤してすぐに手術の麻酔に入ったのですが、ローテートで麻酔科を回っていたので、スムーズに行うことができました。

また、受診された喘息の**患者さんから、ルートの取り方や外し方を丁寧に教えていただいた**こともありました。市中病院だからこそできるいい経験だなと思いました。

芦塚賢美(あしづか まさよし)医師
研修医1年次:福岡大学出身



大学病院では診られない 患者を多く診療

大学病院では重症の患者さんが運ばれるケースが多いのですが、**市中病院はウォークインの患者さんが来る**ので、大学では診られない患者さんを多く診ることができました。

救急科ではどのような症例であっても診ないといけないので、さまざまな知識が必要になり、とても勉強になります。大学と市中病院のどちらでも診ることができるシステムはいいですね。

冠地 信和(かんちのぶかず)医師
研修医2年次:長崎大学出身

